

# アミーゴ会だより

2022年10月  
通巻第52号  
季刊2022-IV

[www.mex-jpn-amigo.org](http://www.mex-jpn-amigo.org)



発行人：河嶋正之  
編集人：河嶋正之  
事務局：笠井道彦

## メキシコ釣紀行 その2：完

### メキシコでオーパ！する

メキシコ・日本アミーゴ会海外会員  
在ワルシャワ現役商社員 柿沼純平

柿沼純平さんは1967年東京生まれ。海川湖を問わずルアー&フライフィッシングが趣味で、一級小型船舶免許を持つ気象予報士。本業は商社マンで2012年から18年までメキシコ駐在。ブラジル、ポーランド（現在勤務中）にも駐在経験。その2はメキシコ釣り話の後編です。残念乍ら本連載は当分休載。「釣りキチ純平」の再びの登場を期待します。<編集部>

#### ラパス、プエルト・エスコンディード、ウワトゥルコ、シワタネホ

後編ではメキシコ、及び隣国ベリーズの、少しマイナーな釣り場の紹介をしたい。

1 つめにご紹介したいのは、メキシコ西岸バハ・カリフォルニア半島南端のロスカボスより少し北のメキシコ湾側にあるラパスという小さな町である。ここは妻がインターネット・サイトで見つけてくれた穴場的ビーチリゾートだ。実はダイバーにはそこそこ有名なようで、特に9月頃に生まれるというアシカの赤ちゃんを目当てに、秋に訪れるダイバーが多いとのこと。私の行った日は日本人女性ダイバーが大勢来ていたのに驚いた。

ボートをチャーターし、岩場沿いに流しながらキャストイングで大物根魚を狙った。パワーのあるベイトキャストイング・タックル（巻き上げ力の強い両軸受けリールとそれに合う堅い竿）で、岩ぎりぎりのところに大型のポッパー（水面でしぶきと音を立てて魚を誘い出すルアー）や、ミノー（ナチュラルに泳ぐ小魚型ルアー）を落とし、岩の下に潜む魚にアピールする。ルアーに命を吹き込むと言うとちょっと大袈裟だが、私の最も好きな釣り方である。私が行った日に釣れたのは大きなフェダイやダツであった。メキシコのすれていないいつもの魚と同様、「え、この美味しそうな小魚、ニセモノだったの?!」という顔をして上がってきてくれた。



写真左：ラパスはボリビアの首都と混同されがちだが、メキシコ西岸バハ・カリフォルニア半島のメキシコ湾側で、更に小さな湾の中にある。



写真中：見知らぬ派手な一匹。現地の人は単にパルゴ(タイ類の総称)と呼んでいたがフェダイの仲間と思われる。



写真右：ダツはどこに行っても外道扱いされるが、引きが強く取り込む際によく跳ぶ、楽しいお客さんだ。

2 つめにご紹介する場所は、メキシコ南部太平洋岸のプエルト・エスコンディードとその東にあるウアトゥルコ。いずれもボートで少し沖に出たところで、カツオ（現地名ボニート）が狙える。この魚の日本語名は、弱い魚であるイワシ（鰯）に対して、強い魚だから「勝つ魚→カツオ」となったという説があるが、(⇒次ページへ)

#### = 目次(案) =

- 1. メキシコ釣紀行「メキシコでオーパ！する 2」 アミーゴ会海外会員 柿沼純平 ...1
- 2. メキシコへの誘い「ぶらりメキシコ一人旅4ーゴルダ山脈の秘宝(2)」 写真家・アミーゴ会会員 阿部修二 ...4
- 3. 私のメキシコ「メキシコの著名人3ー建築家&メジャーリーガー」 アミーゴ会会員 桜井悌司 ...8
- 4. お知らせ:滝本昇氏 OL 講演会...3/メキシコ報告:大統領の9月支持率...7・政策金利9.25%に...9/あとがき...9

スペイン語で「美しい」という名前なのは視点の違いか。

このガイドはインターネットで見つけたが、私はそのような場合も予約はネットではせず、必ず一度電話をかけて少し話をしてみる。10分も話せば自分の釣りスタイルに合った、信頼できるガイドかどうか、すぐに分かるからだ。この時も電話で少し仲良くなっておいたおかげで、とても良いガイドだった。



カツオ釣りは、キャストイング（鳥山をみつけてポッパーやミノーを大遠投する）、ジギング（金属製の重いルアーを沈め高速で巻き上げて魚を誘う）、ライトトローリング（ゆっくりボートを走らせながらミノーやラバー製ルアー一流す）など色々なスタイルで楽しめるが、私が一番好きなのは強く長めのスピニング・ロッドでのキャストイングだ。リーフや根は無いので、遠投できるような細めのラインを使い、リールのドラッグを緩めにして魚を走らせるのが楽しい。

写真左：ウアトゥルコのカツオ。荒れた海の中、しかも風邪で体調不良だったが、そういう日に限ってなぜか大漁。



写真左下：プエルト・エスコンディードの景色。「エスコンディード＝隠された；秘境の」という言葉には、なぜか惹かれるものがある。

3つめはシワタネホという、メキシコ中部西岸にある、隣のイスタパと双子の町。メキシコシティからも比較的近い。この町の名前を聞いて、1994年に公開されたアメリカ映画「ショーシャンクの空に」を思い出される方もおられると思う。スティーブン・キングの「刑務所のリタ・ヘイワース」という小説を映画化したもので、ティム・ロビンズ扮する優秀な銀行マンが冤罪によって投獄されてしまうが、腐敗した刑務所の中でも希望を捨てずに逞しく生き抜いていくというヒーロー・ドラマである。そして主人公が刑務所内でできた友人と、お互い塀の外に出られたら落ち合おうと誓った約束の地としてラストシーンに出てくるのが、このシワタネホとされている（実際の映画の撮影場所は



写真上：太平洋に沈む夕陽。シワタネホにて。



はどう見ても違う場所なのだが・・・）。

ここでは釣り仲間&家族と8人ほどで知人の経営するホテルに泊まり、トローリングでカジキマグロを狙った。実はトローリングは、自分でポイントを見つけ、正確にルアーを投げ、そこに「命を吹き込む」という、ルアーフィッシングの面白みの多くが欠けている釣りなので（自分でボートを操縦する場合はまた全然違うが）あまりやったことが無かったのだが、実は松方弘樹さんのTV番組を見て憧れていた。

私が行った日は、朝から釣れるのはカツオばかりだったが、カジキはまるでTV番組のごとく沖あがり直前に来てくれた。カジキの仲間では小型のバショウカジキ（現地名ベス・ベラ）ではあったが、とはいえ引きはかなり強く、針が他のボートにでも引っかかったかと思うほど一気に100mくらいラインを出された。遠くで何度も大きくジャンプする雄姿を、ビデオに収めてもらうのを忘れたのが残念である。

約40分間期待通りのファイトをしてくれた後、遂に観念して上がってきたバショウカジキは約2メートル。半分を船頭にあげた後、残りの半分を仲間と刺身や塩焼きにして胃袋に収めた。どうせ釣れないだろうと言って釣りに参加せず寝坊していた仲間が、刺身を食べながら「いや、これはまぐれだ」と悔しがっているのを見るのはとても楽しかった。

写真左下：トローリングで獲ったシワタネホのバショウカジキ。このサイズでも揚げるのに40分位かかり、翌日は筋肉痛になった。



## ベリーズ：幻の魚は木彫りで…

最後のおまけはメキシコの隣国ベリーズ。旧イギリス領なので英語圏だがスペイン語も通じる。メキシコシティからはカンクン乗継ぎでまずベリーズ・シティへ。ひなびた町で治安はあまり良くないらしいが、道ですれ違う通学中の小学生たちが皆愛想よく挨拶してくれ、とても親しみを感じる。ベリーズ・シティで一泊後、アンバーgris・キーという島にあるサン・ペドロという町までプロペラ機で飛ぶ。ここはおしゃれなホテルやレストランもある、リゾートアイランドだ。

アンバーgris・キーでは、フライ・フィッシャーの間で釣るのが難しいとされる美しい魚パーミットが狙え、前回ご紹介したボーンフィッシュ釣りのようなオフショア・フライフィッシングが好きな方には、是非お勧めの場所である。パーミットは個体数も少ないので、水面上に見えるヒレを手掛かりに群れを見つけなければ、むやみにフライを投げてはまず釣れない。南アフリカ人で元パイロットだったというガイドのアドバイスに従い、私は大物に備え少し固めの8番フライロッドに、自作のカニ・フライ（カニを模したフライ。ただし、人間は食べられない）で臨んだ。群れは何度か見つけることができ、アタリも数回あったが、残念ながらフッキング（魚を針に掛けること）には至らず。結局釣れたのはいつものボーンフィッシュのみだった。

ベリーズは私のメキシコ駐在最後の釣り旅行となったこともあり、いつもは土産など買わない私が、つい民芸品屋で木彫りのパーミットの壁掛けを買ってしまった。「幻の魚」はいつも我が家のトイレの壁で泳いでいる。尚、アンバーgris・キーでは、マナティが見られたり、ウミガメやおとなしいネコザメがボート際に寄って来たりと、釣りをされない方のリゾート旅行先としても楽しいと思う。



写真左：アンバーgris・キーの全貌。天国という言葉が似あう、穴場のリゾートだ。

写真右：我が家のトイレで泳ぐ“幻の魚”パーミットの木彫りの壁掛け。

## 釣りとは哲学すること？ 野生の本能？

私はよく他の人から「釣りしている時は何を考えているの？」と聞かれることがあるが、いつも「釣りのことを考えてます」と答える。釣りは気の短い人は向いていないが、気の長すぎる人も向いていない。確率のゲームなので、釣れない時は同じことをやってもダメで、常に何か条件（場所、ルアー・フライの大きさ・色・重さ、水深、動かし方など）を変えなければならないからだ。

また「なんで釣った魚を食べもしないのに釣るの？」と聞かれることもあるが、これは自分でもよく分からない。自然を感じられるから？ 大きな魚の引きが楽しいから？ 釣り仲間と飲む酒が美味しいから？

まあどれもその通りだが、どちらかというと、ただ虫を取りに行く子供と同じような感じか。（連載おわり）

\*\*\*\*\*

### お知らせ 滝本 昇 氏 講演会『日本企業のメキシコ進出』

メキシコ駐在経験者ならどこかでお世話になったビジネス・コンサルタントの滝本 昇さんが来る 11 月 10 日にオンラインで「ビジネス・コンサルタントから見た日本企業のメキシコ進出」と題して講演されます。滝本さんは「事業サポートストラテジー社」代表として、いまでも日本企業等のメキシコ進出を支援しておられます。主催は（一社）ラテンアメリカ協会。事前登録者はどなたでも視聴できます。

本セミナーでは、新 NAFTA (USMCA/TMEC) の締結国であり、アメリカに隣接するメキシコの投資先としての魅力が紹介されます。新型コロナウイルスの関係で一時停滞するも、日本企業のメキシコ進出はすでに 1,300 社超に上っています。しかし、メキシコへの投資のメリットは大きい反面、治安問題や行政手続きの遅れ、労働文化の違いからくる労務上の諸問題など、日本企業が直面し解決しなければならない課題もたくさんあります。こうした諸問題について具体例を挙げながら説明されます。

日時：11月10日(木) 10:00~11:15(日本時間)

11月9日(水) 19:00~20:15(メキシコ時間)

形式：Zoom 方式 参加費：無料

事前申込先：<https://latin-america.jp/seminar-entry>

申込期限：11月7日(月)まで

講師の滝本さんは上智大学外国語学部イスパニア語学科卒業後メキシコに渡航。1968年イベロアメリカ大学労務管理学科卒業。1976年から39年間在墨法律事務所代表社員を務め、2016年にJIGYOU SUPPORT STRATEGY社を設立。日系企業の現地法人設立、人事・労務管理、職場環境整備など多岐に亘る支援を提供。1993年に「経済協力貢献者賞（通産大臣賞）」受賞。2017年に平成29年度「春の叙勲（旭日双光章）」受章。また、日本メキシコ学院理事長やメキシコ日本商工会議所副会頭としてメキシコ日系社会および日本メキシコ友好親善に大いに貢献。広く内外のご友人にもご案内ください。

☆ラ米協 HP:<https://latin-america.jp/archives/54558>

## ぶらりメキシコ人旅 —ゴルダ山脈の秘宝(2)：ランダ、ティラコ、タンコヨル—

メキシコ・日本アミーゴ会 会員  
写真家・ルポライター 阿部修二

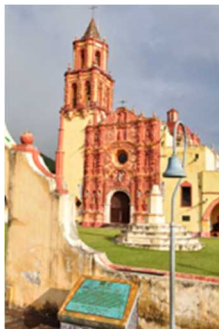
### はじめに

前回に続き、ゴルダ山脈の残り 3 つの村を紹介したい。いずれも魅力的な 18 世紀「田舎風バロック」の修道院・教会が遺されている。

### サン・ミゲル・デル・アグア・デ・ランダ

ハルパンから 120 号線を東に 20km ほど進めば、ランダ村に着く。だが、バス停のあたりに村の中心とわかる物がないから通り過ぎてしまいそうな所だ。道の両側は丘になっているため、雨樋の底のようなところを 120 号線が通っている。村と言うにはいささか殺風景で、集落しているようには見えない。木立の中に家が潜んでいるせいかもしれない。

前述のフニペロ・セッラ神父がこの地を離れた後の 1760 年から 68 年にかけて建設されたランダの教会は、先の街道の北 200m ほど上ったところにある公園の前に鎮座していた。ほぼ赤で彩色されたランダの世界遺産は「無原罪の聖母」に捧げられたもので、前回のハルパンの教会とほぼ同じ設計プランによるものだ。しかしながら、少しだけ異なっている。紙面の許す限りこの教会正面装飾の絵解きをしてみよう。



ランダの教会

正面装飾は全体を横に走る 2 重の軒で 3 つに分けられている。入口のアーチの上にある 2 段目の空間に、4 人の天使に囲まれた聖母像がある。上の二人はカー



4 人の天使に囲まれた聖母像

テンを開いて聖母出現を演出し、下の二人は、香壺を振ってそれを祝福している。そのすぐ上に 8 角形の窓

があるが、その下部左にはスコットランド人の神学者ドゥンス・エスコト (1266-1308)、そしてその右下にはスペイン人作家で修道女のソル・マリア・デ・アグレダ (1602-1665) が手に羽ペンを持って机に向かうレリーフが見える。彼女はスペイン国王フェリペ 4 世 (1605-1665) と 22 年間文通していたというから手紙を書いているのかもしれない。机や椅子などの調度が教会の正面装飾に登場するのはきわめて珍しい。

3 段目の中央部に 3 人の殉教した助祭が並んでい



3 人の殉教した助祭

る。左にはサン・エステバン (35 年没。神殿偏重のユダヤ教を批判したユダヤ人キリスト教徒、石打の刑で殉教)、右にはサン・ピセンテ (304 年没。当時、キリストの迫害が厳しかったサラゴサで殉教)、中央には頭部のないサン・ロレンソ (260 年ごろ没。皇帝に教会の財産を貧しき者のために供出するように求められた時、教会に集まる貧者や病人を示して「これが教会の全財産です」と言って皇帝の怒りを買って、処刑) の像が見える。彼の左手に格子状のものが見えるが、それは焼き網で、その上で焼かれて殉教したとされる。聖ロレンソの体を焼いて貧者に振る舞うようにという悪意が込められていそうな、身の毛もよだつ話だ。いずれの像も殉教の印として棕櫚の枝を一本持っている。

この正面装飾の壁は黄色地に赤で彩色されているため、他の教会に比べても赤い教会に見える。その理由はこのランダ近郊に辰砂 (赤色硫化水銀) を産する地層があり、それを顔料として使ったからだ。その顔料がこの町の顔になったというわけである。

### サン・フランシスコ・デ・バレ・デ・ティラコ

120 号線をランダからさらに 10km ほど東に進むと、ティラコに向かう道の入り口の集落ラ・ラグニータに着く。そこからは公共の乗り物はなく、乗り合いタク

シーで 10km ほどのティラコに向かうことになる。幸いにもすぐにティラコ行きの乗客がそろって発車した。だが、最終地点のティラコまでゆく者は私以外な

く、みんな途中で降りていってしまった。タクシーは私一人を乗せて峠を越えたとたん、眼下の薄い雲の下にティラコの耕作地、約 2 平方 km が広がった。遠く



ティラコの耕作地

に見える山並みはイダルゴ州の州境。人口 800 人ぐ

らいだろうか、先のランダの管轄地ティラコの集落はその 1 本の道に張り付

いていて、舗装が途切れるあたりにティラコの修道院・教会があった。四方を山にかこまれた盆地だが、豊穡の地であることは一目瞭然である。



ティラコの修道院・教会

1754 年から 62 年にかけてセッラ神父の同僚フアン・クレスピ神父の指導の下に建てられたこの教会は、この地方の他の教会と比べても白い壁が強調されて

いるためか清涼感を与えている。教会本体の装飾部分は、まるで白い額縁の中にはめ込まれた絵のように見え、装飾部分との色彩的ハーモニーが絶妙である。色数もほかに比べてかなり増え、さらにレリーフがより立体的になって、それのできる陰影が絶妙なトーンをつくり、色数以上の効果を発揮している。

さて、少々その細部を見てみることにしよう。その中心に優雅なひし形の聖歌隊席の窓が見える。その窓



聖歌隊席の菱形の窓

はキリスト教によく用いられるホタテ貝をモチーフにしたものとも言えなくもないが、むしろ花をイメージして作られたもののように思う。その花片の先端が壁面から飛び出

て立体的だからだ。この窓の金色のカーテンを二人

### ヌエストラ・セニョーラ・デ・ラ・ルス・デ・タンコヨル

前述のラ・ラグニータからさらに 5 キロほど 120 号線を東に進むと、タンコヨルに続く道 190 号線の入り口がある。そこから 40 km ほど山道を車に揺られて行くと、エル・ディビサデロの広大な耕作地が見えてくる。四方を山で囲まれているが約 4 平方 km の平坦な土地だ。ハルパンやランダに比べたら布教村を建設す

の天使が開いている。ティラコの場合、濃紺に白い花模様のカーテンの裏地がこの窓の意匠を数段、優雅に見せている。下方にいる二人の天使は果実のたわわについた枝をぶら下げ、神の世界が豊かで実り多いことを示唆している。

右の白壁の頂上に尖塔が乗っかっていて、その足下に子連れのライオンが張り付いて西の空を見ている。



子連れのライオン像

だがその絵解きが分からないのはもどかしい。単に天頂から村を見守る狛犬のようなものだろうか。

短い期間で成し遂げた「田舎風バロック」のこの作品は、やはり先住民の職業訓練のための練習作品ではあるが、当時の先住民が遺した貴重な遺産であることには変わりない。以前、修復は村人達の仕事だったようだ。だが、世界遺産になったことで、国の文化事業に組み込まれたために、今は一切タッチすることはないという。

昼時、村を一巡してみた。道で立ち話をするセニョールたちに出会った。一人はプルケ



の素焼きのカップを手にしている。彼らのその表情に屈託はみられない。さらに進むとロバの背に乗ったドン・キホーテに出会った。何故かロシナンテのお供は



ない。彼は脇目も振らずロバをせかせて目の前を通り過ぎていった。

ティラコの草原に寝転んで空を見上げた。私は中世に生きているのではないだろうかと思っただけだった。

るには素晴らしい立地である。ここには今でもパメ族



タンコヨルのトウモロコシとヒマワリの畑

の住む集落があり、老人は日常的にパメ語を話しているそうだ。この地の修道院・教会は盆地のなだらかな東斜面に位置し、その周辺に学校や公共施設、商店と住民の家が寄り添っている。今は石やコンクリートの家が主流だが、かつての日本家屋のような板張りに波板トタンの家も残されていて、東北の田舎で育った私の郷愁を誘うものがある。



正式にはエル・ディビサデロとスペイン人が後に付けた村名となっているが、地元の人々はタンコヨルと呼んでいる。ここにも「田舎風バロック」の見事な正面装飾を持つ教会がある。ゴルダ山脈地区に建てられた五



タンコヨルの教会

つの教会の中で最後に建設された教会で、1761年から68年にかけて建設された。その優雅さ

においては前庭でも同じで、二つのポーサと呼ばれる礼拝堂、そしていくつもの尖塔を持った庭を囲む壁、それはバルセロナのガウディのグエル公園を連想させる曲線と色彩を持っている。またその中心には八角形の台座の上に、教会の鐘楼を模した太く丸い柱があり、その上に鉄細工の十字架が立っている。前庭に立てば視線はおのずとその左の空に突き刺さる鐘楼に導かれる。



さて、この教会の正面装飾で興味深いのは、聖歌隊席の明かり採りの六角形の窓の上にあるレリーフだ。窓の上の広いスペースの右に磔のキリスト像、なぜか背負った十字架に羽が生えていて空を飛んでいる。また左や下方にはサン・フランシスコの彫像が、これまた空間に浮いている。この二つの像の間には赤い五本の線



聖歌隊席の六角形窓の上の磔刑のキリスト像

があり、それぞれが体の同じ部位を繋いでいる様に見える。サン・フランシスコがキリストに操られたマリオネットのようにも見えるし、反対にサン・フランシスコがキリスト像のたこ揚げをしてはしゃいでいるようにも見えるのもおかしい。

実はこれにはフランシスコ会の創始者サン・フランシスコの聖痕の逸話が託されている。従順、清貧、貞潔を信条としたサン・フランシスコが死ぬ前のこと、彼は天使に会ってキリストが磔で受けた傷、両手両足、そして胸の傷と同じ部位に聖痕を授かったとする奇跡譚によるもので、キリストを模倣して生きようとしたサン・フランシスコを絵解きしたレリーフである。これはフランシスコ会の「十字架にキリストとサン・フランシスコの交差する腕」の紋章のデザインの原資となった。

これまで何度も話してきたが、18世紀ゴルダ山脈のこうした教会建築はここに住むパメ族の職業訓練の練習作品だった。そのために洗練、豪華という言葉はそぐわないが、彼らが培っていた風俗や習慣、文化をそこに残しつつ、「魂の征服」を許して行く過程



を我々に示す貴重な歴史の証言だと私は信じている。



タンコヨルのセニョリータ(左)と町並み(右)

### フニベッコ・セッラ神父のその後

前回にも触れたが、ゴルダ山脈の布教に取り組んだセッラ神父は、テハス（現米国テキサス州）のサンアントニオの布教村（伝道所）の再建のために1760年、メキシコ市に呼び戻されている。当時、メキシコ北部やカリフォルニア半島に多くの布教村を持って

いたイエズス会は、改宗目的で先住民を布教村に囲い込み、その労働力で活発な経済活動を展開していた。いっぽう、労働力不足に悩むスペイン人経営者は彼らに憤怒し、イエズス会排斥を政府に強く訴えていた。ついに1767年、イエズス会はメキシコ植民地から追放

されている。

こうした背景があり、セッラ神父は急遽、修道士不在のカリフォルニア半島に赴任させられている。結果、その延長にあるサンフランシスコ（米国カリフォルニア州）までの布教村建設に関わり、1784年、サン・フランシスコ南部にあるモントレイの地で没している。彼はカリフォルニア州の太平洋岸にフランシスコ会の布教村を多数残した。

メキシコ市からサン・フランシスコ市までの布教のための物資補給路は「エル・カミノ・レアル（国王の道）」と呼ばれ、「魂の征服街道」となった。それはアメリカでは「ミッション・ロード」



「魂の征服街道」となった。それはアメリカでは「ミッション・ロード」

と呼ばれ、大谷翔平が活躍するエンジェルス・スタジアムの脇を通る高速道路5号線がそれである。「エル・カミノ・レアル」のシンボルとなったベルが、疾走する車を見守っている。

残念ながら、カリフォルニア州にセッラ神父が残した布教村の教会の正面装飾はきわめてお定まりのものばかりで、ゴルダ山脈で見たあの「田舎風バロック」の装飾はない。カリフォルニア州の布教村周辺には、当時文化を醸成した集団が住んでいなかったのか、それとも、セッラ神父の情熱が失せていたのか。スペインの領土拡大のための「エル・カミノ・レアル（国王の道）」は、後に米墨戦争敗北によりアメリカのものとなり、メキシコ人の地団駄の原因となっている。この辺りの話は拙書『エル・カミノ・レアル（国王の道）』（未知谷）を参考にされたい。

（連載その4完）

阿部修二会員に「ぶらりメキシコ一人旅」と題して、メキシコのあちこちを訪ね歩いたエッセイを連載していただきます。

- 第1回(2022年1月号)：トラスカーラ
- 第2回(同4月号)：ケレタロ
- 第3回(同7月号)：ハルバン&コンカ
- 第4回(同10月号)：ランダ、ティラコ&タンコヨル

阿部さんは2005年よりアミーゴ会会員。1947年岩手県花巻市生まれ。岩手大学工学部卒および桑沢デザイン研究所ビジュアル・デザイン科卒。日本写真家協会元会員。メキシコ教会美術に惹かれ1986年より毎年渡墨。2005年以降4冊のメキシコ関係書籍を発行。最新作は『先住民のメキシコ—征服された人々の歴史を訪ねて』（2021年9月刊 明石書店）です。<編集部>

\*\*\*\*\*

### メキシコ報告 AMLO 大統領の9月支持率 56%

メキシコ金融紙 El Financiero は10月3日付け電子版紙面で、AMLO 大統領の9月調査支持率は前月比2%ポイント上昇して56%となり、不支持率は同1%ポイント減の42%になったと報じた(表1参照)。

2018年12月の就任以来、AMLO 大統領支持率は9月に上昇する傾向があり、9月15日の独立記念日に向けて大統領の露出率が高まる「祖国月間」の効果とされる。因みに各年9月の前月比上昇率(%ポイント)は19年が+1、20年が+3、21年が+5、22年が+2だった。

政策分野別では経済政策一般が支持26%、不支持56%、物価政策が支持17%、不支持70%と不人気だ。また、安全対策は支持25%、不支持60%、腐敗対策⇒



表1. AMLO 大統領の支持率：四半期別推移 (%)

⇒は支持31%、不支持49%と、国民がAMLO政権に抱く不満が集中している。

他方、大統領に期待する“特質”をAMLO大統領について尋ねると、国民の評価は「正直」が57%、「指導力」が51%、「実行力」が43%となっている。

出所：[Mes patrio le da 'empujoncito' a AMLO: aprobación sube a 56%, según Encuesta EF - El Financiero](#)

### メキシコ報告 AMLO 大統領の9月支持率 59%

メキシコ経済紙 El Economista は9月30日付け電子版紙面で、提携調査会社 Mitofsky の9月世論調査の結果を、AMLO 大統領の支持率58.8%、不支持率40.9%と報じている(表2参照)。うち岩盤支持層ともいえる非正規労働者層の支持率が8月比-8.8の62.4%に、教員組合員層の支持率が同-3.6の44.9%と大きく下がった。

経済状況については改善30.6%、悪化37.5%、不変30.6%と評価が拮抗している。社会安全度について



表2. AMLO 大統領の支持率：月別推移 (%)

▶ては改善28.4%、悪化45.7%、不変23.4%で、汚職・腐敗度については高い・普通が84.7%、低い・無しが13.4%とメキシコ社会の“イマ”を反映している。

出所：[Sube a 59% la aprobación de AMLO en septiembre \(eleconomista.com.mx\)](#)

## メキシコの著名建築家・メジャーリーガーの人名録

～その3～

メキシコ・日本アミーゴ会会員 桜井悌司  
一般社団法人ラテンアメリカ協会常務理事

## (5)メキシコの著名建築家 3名

建築家については、建築家のノーベル賞と呼ばれるブリツカー賞やアメリカ建築家協会賞の受賞者と世界的に有名な建築家の3名を選定した。

## \*ルイス・バラガン

**Luis Ramiro Barragán Molfin**

1902年～1986年。メキシコ、ハリスコ州グアダハラ市の地主階級に生まれる。グアダハラ自由大学土木工学科で水力工学を専攻。白を基調とする簡素で幾何学的なモダニズム建築が建築の基本であるが、メキシコ独自の色彩、たとえばピンク・黄色・紫・赤・黄などのカラフルな色彩で壁を一面に塗るなどの要素を取り入れている。ル・コルビジェなどの影響を受け、国際主義的なモダニズムと地方主義との調和を図っている。また庭園や屋内に水を張った空間を取り入れたり、建物に溶岩やメキシコ独特の植物からなる庭園を作ったりしたことでも知られる。

代表作は以下の通り。

○ペドレガル庭園分譲地(1945年～54年)。メキシコ・シティ、ペドレガル庭園。○ルイス・バラガン邸(1947年～48年)。メキシコ・シティ、タクバヤ地区。○トゥラルパンの礼拝堂(1952年～60年)。メキシコ・シティ、トゥラルパン区。○サテライト・タワー(1957年～58年)。メキシコ・シティ、シウダー・サテリテやナウカルパン地区等。彼の自宅は2004年、ユネスコの世界文化遺産に登録された。

## \*リカルド・レゴレッタ

**Ricardo Regorreta Vilchis**

1931年～2011年。メキシコ国立自治大学(UNAM)卒業。2000年ゴールドメダルを受賞の他、日本の高松宮殿下記念世界文化賞(建築部門)を2011年に受賞。彼は個人の住宅、公共建築、都市のマスタープラン等を手掛けている。

主要な作品は以下の通り。

○ホテル・カミーノレアル(1966年)。メキシコ・シティやその他の都市の同ホテルも多数設計している。○メキシコ日産クエルナバカ工場(1967年)。その他コダック、クライスラー、ルノーの工場。○サンアントニオ公共図書館(1995年)。博物館も多数設計している(モンテレイ近代美術館、サンノゼのイノベーション技術博物館等)。○モンテレイ工科大学サンタフェ

キャンパス(2001年)。大学建築にも多数関わっており、カーネギーメロン大学(カタール)やカイロ・アメリカン大学のキャンパス・センター等。ハノーバー万博(2000年)のメキシコ館の設計等。

## \*ペドロ・ラミーレス・バスケス

**Pedro Ramírez Vázquez**

1919年～2013年。メキシコ国立自治大学(UNAM)建築学部卒業(1943年)。作家・詩人である。カルロス・ペリサー(Carlos Pellicer)の説得により、建築を学んだ。ラテンアメリカの近代建築、プレコロンビアの文化の影響を受けた。

農村地域で学校を建設するシステムを開発し、メキシコと海外に数千の学校を建設した。誰もが知っている建築には、国立人類学博物館(1964年)、アステカ・スタジアム(1966年)、プエブラのクアウテモック・スタジアム、トラテテロルコの塔(1965年)、グアダルルーペ寺院の新バシリカ(1976年)、スイスのローザンヌのIOC本部ビル(1986年)とIOC博物館(1988年)、テンプロ・マヨール博物館(1987年)等が挙げられる。

日本関係では、レフォルマ通りにある日本大使館(1975年)とペドレガルにある日墨学院(1976年)を弟子のマヌエル・ローセンとともに設計した。国際博覧会関係では、1958年のブラッセル万博、その後のシアトル万博、ニューヨーク国際博覧会、1992年セビリャ万博のメキシコ館の設計を行った。

1968年メキシコ・オリンピック及び1970年FIFAワールドカップ・メキシコ大会の組織委員長、ロベス・ポルティエリョ大統領時代のインフラ・人間居住大臣を歴任している。ロサンゼルス・タイムズは死亡記事で、「ラミレス・バスケスは、プレコロンビアの美学とヨーロッパのモダニズム感覚を融合させた驚くべきオリジナル・デザインで知られていた」と記し、「94歳で死亡。建築家はメキシコ・シティの顔を変えた」と評論している。

## 「メキシコの主要建築とその設計者」

メキシコの有名な建築とその設計者を下記にリストアップした。

\* Chapel of Pocito in Guadalupe 18世紀後半 : Francisco Guerrero y Torres

\* Metropolitan Cathedral (メキシコ・シティ) 16世紀に建設開始 : Claudio de Arciniega

\* Santa Anna Theatre 1844年。Plaza de Toros 1850年代(すべてメキシコ・シティ) : Lorenzo de la Hidalga

\* Palace of Fine Arts 1904年～34年(メキシコ・シティ) : Adamo Boari.

\* National Insurance Building 1928年 : Manuel Ortiz Monasterio

\* Institute of Hygiene 1925年(ポポトラ) : José Villagrán García



- \* Centro Urbano Alemán 1947年～49年 (メキシコ・シティ) : Mario Pani
- \* National Autonomous University of Mexico 1950年建設開始 (メキシコ・シティ) : Enrique del Moral, Pani, and Carlos Lazo
- \* New Olympic Stadium 1952年 (メキシコ・シティ) : Augusto Pérez Palacios, Jorge Bravo, and Raúl Salinas
- \* The Rectory 1952年 (メキシコ・シティ) : Pani, del Moral, and Salvador Ortega Flores
- \* University Library 1952年 (メキシコ・シティ) : Juan O’Gorman, Gustavo Saavedra, and Juan Martínez de Velasco
- \* Anthropology Museum 1963年～65年 (メキシコ・シティ) : Pedro Ramírez Vázquez
- \* The School of Theatre 1994年 (メキシコ・シティ) : TEN Arquitectos
- \* The School of Dance 1994年 (メキシコ・シティ) : Luis Vicente Flores
- \* San Juan de Letrán Station 1994年 (メキシコ・シティ) : Alberto Kalach, Daniel Alvarez Alberto Kalach, and Daniel Alvarez
- \* Tlalpan Chapel 1952年～55年 (メキシコ・シティ) : Luis Barragán

**(6)メキシコの著名メジャーリーガー 4名**

メキシコもドミニカ共和国、ベネズエラ、キューバ、プエルトリコほどではないが、ベースボールは人気のあるスポーツである。ここでは、メジャーリーグで活躍した4名の選手を紹介する。

**\*アウレリオ・ロドリゲス  
Aulerio González**

1947年～1983年。エンゼルス、タイガース、ヤンキース等に所属。サード。ゴールドグラブ賞(1976年)。メキシコの野球殿堂入り。

**\*フェルナンド・バレンスエラ  
Fernando Valenzuela**

1960年生まれ。ドジャース、エンゼルス、パドレス等に所属。1981年にはサイヤング賞、三振奪取(180)を獲得。最多勝利1回(1986年21勝)。オールスター戦出場6回。2006年にはWBCメキシコ代表督。

**\*エステバン・ロアイサ  
Esteban Loaiza**

1971年生まれ。レンジャーズ、パイレーツ、ブルージェイズ等に所属。投手。最多三振奪取王(2003年、207)。オールスター戦出場2回。

**\*エイドリアン・ゴンサレス  
Adorían González**

1982年メキシコ生まれ。両親メキシコ人。レンジャーズ、パドレス、ドジャース等所属。ファースト。打点王(2014年)、最多安打(2011年、213)、ゴールドグラブ賞4回。オールスター戦5回出場。過去4回のWBCメキシコ代表。

(連載その3完)

桜井悋司委員は昨年、ラテンアメリカ協会のホームページに「ラテン好きのためのリベラルアーツ」と題して中南米各国縦断で12回連載されました。このほど国別に再構成した「著名文化人・スポーツ選手等の人名録・メキシコ編」をまとめられ、アミーゴ会会員にも提供して下さることになりました。今号から分割掲載します。お楽しみください。なお、「メキシコ編」は同協会HPに一括アップ(<https://latin-america.jp/archives/52130>)されています。メキシコ編の内容は下記の通りです。

- (1)メキシコのノーベル賞受賞者：第50号掲載 (2)メキシコの著名作家・詩人：第50号掲載
- (3)メキシコの著名画家：第51号掲載 (4)メキシコの著名作曲家：第51号掲載 (5)メキシコの建築家：第52号掲載
- (6)メキシコ出身のメジャーリーガー：第52号掲載 (7)メキシコの著名サッカー選手 (8)メキシコの著名ボクサー
- (9)国際空港に見るメキシコ人 (10)紙幣にみるメキシコ人

桜井さんは現在、ラテンアメリカ協会常務理事、NPO 法人イスパニカ文化経済交流協会理事長。1967～2008年ジェトロ勤務(メキシコ、チリ、ブラジル、スペイン、イタリアに計15年半駐在。展示事業部長、監事)。2008～15年関西外国語大学教授。 <編集部>

\*\*\*\*\*

**メキシコ報告 政策金利を0.75%上げて9.25%に**

メキシコ銀行(BANXICO:中央銀行)は9月29日の定例会合で、政策金利を75bp(0.75%)引き上げて8.5%から9.25%とした。メキシコの利上げは11回連続、0.75%の利上げは今年6月・8月に続き3回連続。これで政策金利は過去最高を更新、2021年6月来の累計利上げ幅は525bp(5.25%)。実質金利もプラス幅が拡大し、引き締め度合いが一段と強くなる。

メキシコの利上げは高水準の国内インフレ対策および米国FRBの連続利上げに追随するもの。次の11月会合でもBANXICOは政策金利を0.75%引き上げるとの見方が大勢だ。

経済概況：メキシコ経済は低位安定(IMF10月通年見通し+2.1%;GDP成長率4～6月期前年比+2.2%;8月失業率3.5%;8月賃金上昇率+11.5%)も、ロシアのウクライナ侵攻で物価高騰が続く、20年ぶりの高

水準(9月前年比インフレ率+8.7%)。変動相場制ペソの対ドル・レートは利上げ継続で堅調に持続(1ドル≒20ペソ近辺)。自動車などの対米輸出回復と在米メキシコ系人の家族送金持続(8月51億ドル)。外貨準備高2千億ドル弱維持。メキシコ経済のレジリエンスは総じて高いがスタグフレーション危機目前。IMF10月最新見通しで23年成長率を1.6%から0.6%に引き下げ。

**あとがき**：柿沼純平さんの釣紀行は残念無念の休載。恙なくポーランド勤務が続けられることを祈念。11月10日のオンライン講師 滝本 昇さんのご寄稿を本誌第46号(2021年4月)に掲載済。11月8日の米国中間選挙の結果は移民問題や貿易・経済関係などの分野で今後の墨米二国間関係に多大の影響必至。要注目。名古屋市の河村たかし市長はメキシコ市を10月28日～11月4日訪問予定。姉妹都市提携45周年式典出席と10年続く上下水道技術協力の継続覚書締結へ。新時代の姉妹都市交流に期待。ロシアのウクライナ侵攻は先行き不透明。新しい冷戦構造や如何。[20221012か]